

【織物・染色品】の応募作品について 公募展が求める作品像

「着物＝日常着」でなくなった現代において、単に価格が安い、色柄が美しいということではなく、他にはない特別感・独自性があり、購入者が、着てみたい、周りに自慢したいと思えるような「自分だけの特別な一品」となる作品を求めます。

【刃物作品】の応募について

会場の都合上、事前にどのような作品があるかを会場側に連絡致しますので、申し訳ございませんがなるべくお早いご応募をお願い致します。

また、応募前でも構いませんのでこういった作品（サイズ等）を応募予定かだけでもご一報いただけますと幸いです。

ご負担おかけして申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。